

CNALレポート・ジャパン

Conferencing industry News report, research & Analysis - CNA Report Japan

創刊：1999年12月

発行日：毎月15日・月末

取材・編集・発行：橋本啓介

テレビ会議・ウェブ会議・電話会議システム専門 定期レポート

Vol. 11 No.4 2009年2月28日号

編集:editor@cna.jp 広告:pr@cna.jp 読者登録:<http://cna.jp>

Copyright 2008 CNA Report Japan. All rights reserved.

製品・サービス動向-国内

沖電気工業の H.323 対応 PC 型ビデオ会議システム、HD (720p、1080i/p)、SD/HD 混在、16 分割画面などに対応

沖電気工業株式会社(東京都港区)は、同社の H.323 対応 PC 型ビデオ会議システム「Visual Nexus(ビジュアルネクサス)」の HD 対応版「Visual Nexus ver4.0 HD」を発表した。(2月12日)

Visual Nexus がサポートしていた従来の最大解像度は 4CIF サイズ(704x576)であったが、今回新たに HD 対応版を発表することで、SD 解像度の他、720p(解像度 1280x720)、1080p(1920x1080)、1080i(1920x1080)にも対応する。

今回の HD 対応は、ビデオ会議専用端末の高解像度化と経費削減のためのビデオ会議導入が加速していることが背景にあると社では説明する。その動向を受けて社では、HD ビデオ会議システムの市場価格と比較して約 1/2 の導入コストで構築ができる Visual Nexus ver4.0 HD を、新たにラインナップに加えることで、同社の事業の大幅な強化を図る考えだ。



HD 解像度 (720p) で最大 16 画面を合成

また SD 解像度と HD 解像度の両方をサポートしているため、SD/HD 混在での多地点ビデオ会議も可能だ。加えて、Visual Nexus の会議サーバ上で会議参加者の最大 16 画面

の映像を HD 解像度 (720p) で 1 画面に合成し、端末に配信する機能や、各々の端末に配信する解像度変換機能も搭載している。解像度変換機能によって、SD/HD 多地点ビデオ会議接続の環境でも、接続する端末がサポートする解像度に最適化することが可能だ。

その他、各社の HD ビデオ会議システム端末と 1対1 のビデオ会議接続や、共有した資料の操作や書き込み(データ共有)にも対応する。

販売価格については以下の通り。システム最小構成価格(サーバ+クライアント):5 拠点導入で 387 万円(税別、以下同)から。標準システム構成価格(サーバ+クライアント):20 拠点への導入で 838 万円から。会議サーバ標準構成価格(サーバ単体):20 拠点で 741 万円から。

Visual Nexus ver4.0 HD の出荷開始は、会議サーバ(Visual Nexus Meeting Server HD)については、今年 4 月から、PC クライアント(Visual Nexus Endpoint HD)については、6 月からの予定。

社では年間 3000 拠点ライセンスの販売を目標としている。

ライフサイズ社、日本語に対応しマルチベンダー端末をサポートしたビデオ会議管理プラットフォーム「LifeSize Control 4.0」を発表
ライフサイズ・コミュニケーションズ社は、英語、日本語などに対応したビデオ会議用ネットワーク管理プラットフォーム「LifeSize Control 4.0(ライフサイズコントロール 4.0)」のリリースを発表した。大規模企業のみならず中小企業のビデオ会議ニーズに柔軟に対応するソリューションと社では説明する。

LifeSize Control 4.0 の特長は、ライフサイズ社の HD ビデオ会議端末以外の他社メーカーの端末もサポートしてお

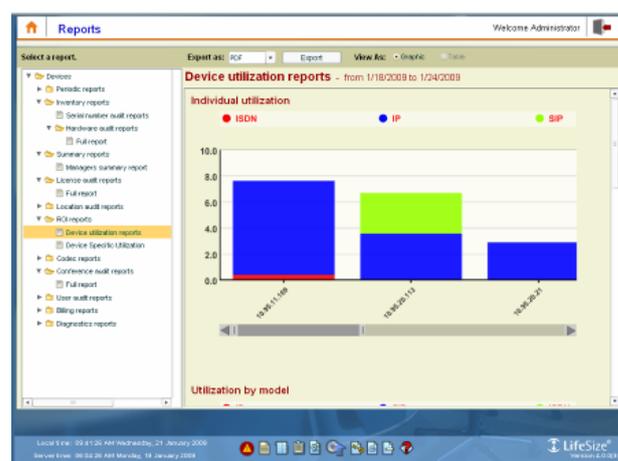
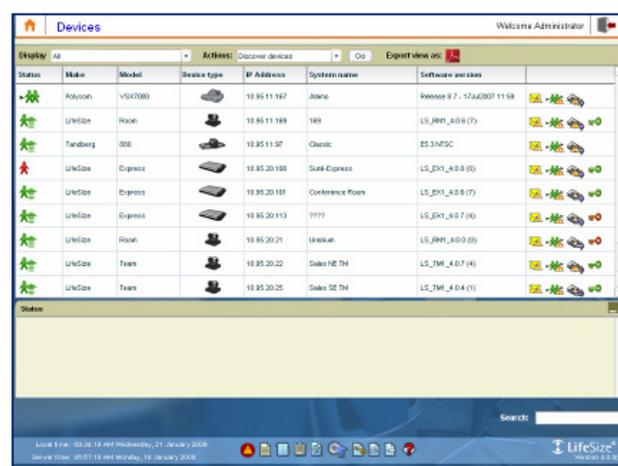
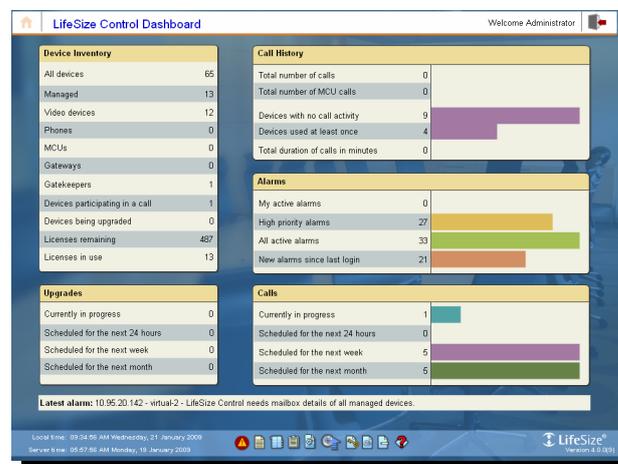
り、それらの一元管理と制御を行うための必須機能や予約管理機能を搭載するとともに、管理者やユーザ双方にとって使いやすいユーザインターフェイスに工夫がされている。また企業のITインフラとの統合や拡張性にも特長があるという。

LifeSize Control 4.0 が提供する機能の要は、「Smart Scheduler(スマートスケジューラ)」だ。Smart Scheduler は、全ビデオ資源(MCUのリソース管理のことを指している)の管理やリソース配分を最適化することで、効率的な会議スケジュールを可能にする技術。Smart Scheduler は、ビデオ会議ネットワーク上にある、ビデオ会議端末や多地点接続装置などを自動的に認識し、エンドユーザにビデオ資源を割り当てることで簡単に会議のスケジューリングを提供するところに特長がある。つまり、システム管理者が効率的なシステム管理が行えるとともに、エンドユーザもビデオ資源の状態を考えるとなく容易にビデオ会議の予約が行えるということだ。

また企業のITインフラとの統合では、たとえば、マイクロソフトの「Microsoft Exchange(マイクロソフトエクスチェンジ)」との統合がある。Microsoft Exchange との統合は、LifeSize Control 4.0 が「Microsoft Active Directory(マイクロソフトアクティブディレクトリ)」をサポートしているため、このためのサーバへのパッチやエンドユーザごとの Microsoft Outlook プラグインも必要なく統合ができる。「IT 管理者が日々行っている新入社員用メールボックスの追加と同様の容易さで新規ビデオ資源を追加できる。」(ライフサイズ社)

一方、システム管理者向けの機能では、システム管理者が、端末構成、システムアップグレード、通話履歴、アラーム、通話状況といったビデオ会議管理に基本的に必要な監視対象をリアルタイムで容易に確認することができる他、各種システム設定もユーザインターフェイスの工夫により簡単に各種操作が行える。加えて、通話統計情報の収集を可能にするレポート機能もある。レポート機能では、使用率のモニタリング、ROI評価、出張回数の減少による二酸化炭素排出量削減、ネットワーク増設計画策定などに必要となる基本データの収集が可能だ。その他、操作環境において重要な言

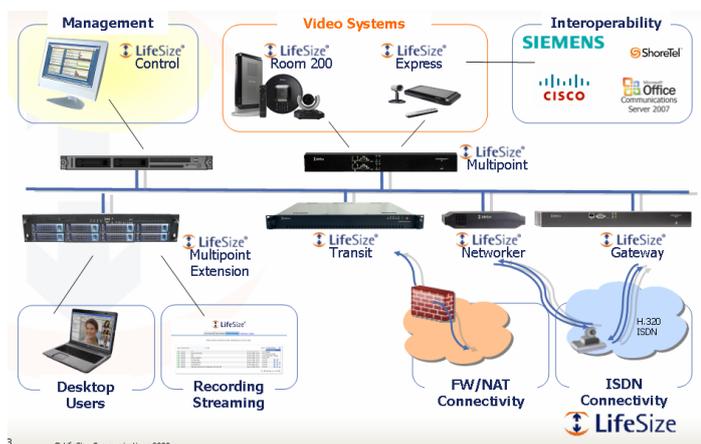
語サポートも充実化を図り、日本語、繁体字中国語、簡体字中国語、韓国語を追加した。



LifeSize Control 操作画面

こういったビデオ会議管理システムは、社内などのネットワークに設置されたビデオ会議システムを効率的に管理、

運用するための機能を提供するもの。端末管理を合理化することで、ビデオ会議端末や多地点接続装置の使用率を高め、その結果 ROI(対投資効果)の改善に寄与できるところにその役割とメリットがある。



LifeSize Control は、既に提供されており、500 端末までサポートできるデモ用ライセンスを 30 日間無料で試すことができる。

ライフサイズ社の日本法人は、東京都新宿区にあるライフサイズ・コミュニケーションズ株式会社(2006 年 9 月設立)。国内の総販売代理店は、株式会社日立ハイテクノロジーズ(東京都港区)。

インタロボット、無料の共有型 WEB ホワイトボードのサービス開始

インタロボット株式会社(岡山県岡山市)は、無料の共有型 WEB ホワイトボード「AB 会議」を 2 月 11 日よりサービス開始した。同社では、2008 年 10 月より試験運用をおこなってきたが利用者の反応から市場ニーズが高いと判断し今回正式なサービスとして開始した。

AB会議は、FLASH アプリケーションとして開発されており、インターネットに接続できる PC があれば、同社指定の Web サイトにアクセスするだけですぐに利用することができる ASP サービス。ユーザは事前の登録など不要。

利用方法は以下の通り。利用者 A、B は、AB 会議のサイトにアクセスする。まず利用者 A がバナーをクリックし、表示さ

れた 5 桁の数字を利用者 B に伝える。それを受けて利用者 B は、B のバナーをクリックし教えられた 5 桁の数字を入力。そうすることで、お互いの接続が完了する。利用者 A と B は、画面に表示される共通の通信パネルを通してコミュニケーションが行える。

その際に利用できる機能としては、ペン描画およびポインター機能、画像操作機能(移動、拡大、縮小、回転など)、画像アップロード機能、スナップショット機能(Web カメラ使用)、テキストチャット、Web 画面表示機能がある。

AB 会議は、電話をしながらのデザインの打合せ、図面や書類を用いての打合せ、ミニノートの Web カメラで現場の様子を見せながらの打合せ、手書きで絵を描きながらの打合せなどの活用シーンを同社では考えている。

インタロボットでは、有料版サービス「AERU オフィス」も提供しており、AB 会議と共通のインターフェイスで設計されている。現在 AB 会議のサービス提供と合わせて、AERU オフィスを月額 31,500 円で利用できる「不況を吹き飛ばせキャンペーン」を実施している。AERU オフィスは、AB 会議を利用して Web 会議の導入効果に確証を得たユーザにスムーズに導入してもらえる有償版の Web 会議システムと同社では説明する。

**インタロボット関連記事・Vol.9 No.22 2007 年 12 月 15 日号 page 1-3*

エイネット、監視オプションやストリーミング機能を搭載した新しいバージョンの Web 会議を発表

エイネット株式会社(東京都千代田区)は、新しいバージョンの Web 会議システム「Fresh Voice V5(フレッシュボイス V5)」を発表した。新たに監視オプションを提供する他、既存の録画録音オプションにストリーミング機能を追加した。

新バージョンの Fresh Voice V5 は、社内で行われる通常の会議用途だけではなく、簡易的な監視システムとしても活用できるようになった。カメラ遠隔操作や自動応答機

能、PTZカメラとPCをVISCAケーブルにて接続するとソフトウェア上で遠隔のカメラをパン、チルト、ズーム、プリセットの操作が行える。会議の時には会議システムとして、その他の時間には、遠隔監視システムとしての使い分けができるということ。

また録画オプションにストリーミング配信機能を追加した。これは、セミナーや発表講演などの配信に対応したもので、従来では、会議中に行われる会議内容を録音録画し、生成された録画ファイルをストリーミングサーバやファイルサーバにアップロードする必要があったが、ストリーミング機能を使うことで、そういった煩雑な操作が不要になり、誰でもが録画から配信までの操作を簡単に行えるようになった。ストリーミングのフォーマットは、マイクロソフト Windows Media Playerで再生可能な形式になる。

同社によると、Fresh Voiceは、2003年に発売され国立大学付属病院長会議や東洋大学大学院など1500を越える大学、官公庁、企業、団体などに導入されている。また富士キメラ総研の調査によると、2005年から2008年まで4年連続でWeb会議ソフトシステム販売部門における国内トップシェアを獲得している。高音質で遅延が少なく、会議操作も簡単で約3秒というスピードで多人数を同時に呼出し、会議を開始できる。また1サーバあたり最大50拠点を結ぶことができるという。クラスタリング機能を使えば複数サーバを連携させることも可能だ。

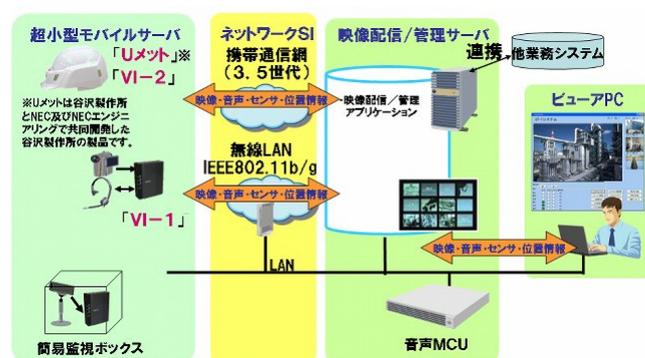
日本電気、NEC エンジニアリング、ヤマハ、矢沢製作所、画像共有や音声コミュニケーションが可能な現場可視化ソリューションを販売開始

日本電気株式会社(東京都港区)、NEC エンジニアリング株式会社(東京都品川区)、ヤマハ株式会社(静岡県浜松市)、および株式会社谷沢製作所(東京都中央区)は、超小型(130グラム)モバイルサーバ「VI(ブイアイ)シリーズ」を活用した「現場可視化ソリューション」を新たに商品化し、2008年11月に発表した。

現場可視化ソリューションは、VIシリーズと音声・画像サー

バ群、監視システムなどから構成され、建築、土木作業、鉄工業、重化学工業、電気、ガス、水道、鉄道、通信などライフライン施設、さらにデータセンタなどの現場作業を可視化するためのソリューション。

VIシリーズの筐体は130グラムで、無線LAN、3.5G携帯、WiMAXなどの機能を持ち、作業者はウェアラブル端末として着用したり、あるいはモバイルサーバボード「VI-2」を組み込み、内蔵カメラとイヤホンを着用した通信ヘルメット「Uメット」を装着する。



現場作業者は、広大な敷地などの作業現場において作業する間、遠隔地の上司からのリアルタイムの指示を受けたり、あるいは現場作業者が上司へ報告したりすることができるため、安全管理や品質管理の向上に役立つ。また関係部署間での映像情報の共有、多地点での音声会議などが行える。

さらに、現場に設置し位置情報(GPS)機能と各種センサを連携させることにより、生産設備の保守点検や公共交通機関でのリアルタイム監視、あるいは危険がともなう屋外現場でも使用が可能だ。

同様なソリューションは、既に社団法人日本鉄鋼連盟での実証実験で活用され現場作業員のリスク削減に貢献したという。実証実験は、鉄鋼の製造現場におけるITを活用した現場作業員の安全性を確保する内容。

現場可視化ソリューションは、NEC エンジニアリングがVIシリーズの開発を、ヤマハが音声会議用多地点接続装置「PJP-MC24」のモバイル対応版の開発をそれぞれ行った。一方Uメットは、矢沢製作所、NEC、NEC エンジニアリング

の共同開発によるもの。VI-2 を組み込むことで映像配信や音声会話のための無線通信が可能になる。また、作業者が転倒した場合のアラーム機能もあり、機器や電源をオールインワンで内蔵することで、ケーブルレスでの装着とハンズフリー性を実現している。

当ソリューションは、国内にとどまらず積極的に拡販していく計画。ブラジルなどでのトライアルマーケティングを展開中。今後ニュージーランドなど大洋州を始めとしてグローバルに展開する予定。基本構成での販売価格は、600 万円から(税別)。2009 年 1 月から出荷開始予定。また U メットは、2009 年 3 月からの予定。今後 3 年間で関連 SI を含みグローバルに 400 億円の販売を予定。

コクヨ S&T、Web テレビ会議サービスに ECO メーター機能を標準搭載、間伐実施権付きプログラムも開始

コクヨ S&T 株式会社(大阪府大阪市)は、同社が提供している Web テレビ会議サービス「meetima(ミーティマ) PC 会議システム」に、新たに「ECO(エコ)メーター」機能を 2 月 10 日から無料で標準搭載するとともに、高知県「四万十・結い森」間伐実施権付き Web 会議利用プランも新しいサービス利用メニューとして提供開始する。

同社では、Web テレビ会議サービス導入によって人の移動により発生する CO2 排出量の削減効果にも着目している。そこで今回 meetima に CO2 排出量削減のみなし効果、および交通費と移動時間を自動計算して見やすく集計する ECO メーター機能(インストール不要。全てのユーザが利用できる)を搭載した。会議を行う際に今いる場所の最寄り駅を入力するだけで節約効果を計算する。ECO メーターは、サービスの導入評価や利用環境の改善、環境意識の向上を求めるユーザに最適な機能だと同社では説明する。

また過去の会議に関する ECO メーターの情報は、CO2 削減効果を杉の木の呼吸量に換算した値でも表示したり、「ECO レポート」を希望すれば、会議ごとに会議全体と個人分の削減できた CO2 排出量、交通費、移動時間をメールで

受け取ったりすることができる。さらに、年間契約を交わしたユーザには会議ログデータをまとめた「年間レポート」も提供する。



ECO メーター表示例(左、左下)

年間レポートでは、以下のレポートを提供する。(1) PC 会議室利用状況。総利用時間、平均参加拠点数、平均会議開催時間数、(2) CO2 排出量。総排出量、平均排出量。(3) 交通費削減効果。総削減金額、平均削減金額。(4) 移動時間削減効果。総削減時間、平均削減時間。

しかし、Meetima 利用によって人の移動を抑制したこととする CO2 排出量の削減はみなし効果とされるが、実際のところ直接 CO2 を削減するものではない。人が移動しなくても実際上交通機関は稼働し続けるからだ。

そのため同社では、高知県にある「コクヨ-四万十-結の森」への緑化活動を支援するメニュー「結の森エコプログラム」を用意した。これは、meetima の年間契約をおこなった際の売上の一部(例:基本料金の 10%:税抜 41,880 円)を間伐実施のために「結の森プロジェクト(大正町森林組合)」へ寄付される仕組み。同社では、これによって meetima 導入を通してより明確な環境活動に参加すること

ができると考えている。

同社では、2009年の販売目標を2,000万円としている。

Meetimaは、2008年2月にコクヨグループのコクヨS&Tで開始されたWeb会議サービス。

業界ビジネス動向-海外

BTカンファレンシングとCO2NeutralConferencing.com社、カーボン・ニュートラルな会議サービスをアジア太平洋地域で開始

英ブリテッシュテレコムの子会社であるBT Conferencing（BTカンファレンシング）は、CO2NeutralConferencing.com社と提携したことを発表。（2月3日）両社は、CO2の排出量と吸収量が、会議サービスを利用することで相殺ゼロになる「カーボン・ニュートラル」の考え方を提案した会議サービスをアジア太平洋地域に共同で提供していく計画だ。

会議サービスを利用するユーザ企業は、排出削減証明と呼ばれるカーボンクレジットが付いたサービスを購入することで会議サービスの利用コストを下げることが可能だ。それにより企業がコスト削減と環境への貢献を同時に実現することができるという。

これに加えて、CO2NeutralConferencing.com社は、出張などのビジネストラベル削減のためのコンサルティングサービスを提供するとともに、企業インセンティブプログラム「CO2NeutralMILES」や「CO2削減レポート」なども提供する。CO2NeutralMILEは、出張のかわりに会議サービスを利用するとインセンティブをもらえるもので、またCO2レポートでは、会議サービス利用者の年間CO2削減実績を詳細にわたってまとめている。このデータは企業が発行するCSR（企業の社会的責任）報告書にも活用できる。

今回のサービス提供において、CO2NeutralConferencing.com社は、BT Conferencingの保有するインフラとネットワークを利用して、このサービスを提供するとともに、一方BT Conferencingは、CO2Neutral

Conferencing社のユーザへもBT Conferencingの会議サービス・ソリューションを提供する計画だ。

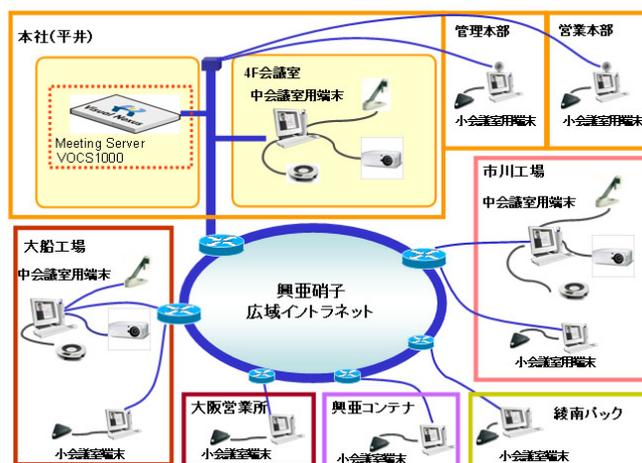
導入利用事例

OKI ネットワークス、興亜硝子にビデオ会議システムを納入

株式会社OKI ネットワークス（東京都港区）は、興亜硝子株式会社（東京都江戸川区）に対して、沖電気工業株式会社（東京都港区）のビデオ会議システム「Visual Nexus（ビジュアルネクサス）」を納入したと発表した。（2月2日）

今回導入したビデオ会議は、営業部門、生産企画部門、製造部門の各担当者、責任者による社内会議に費やされる移動コストや各参加者の時間的なロスを解消したり、拠点間の情報共有を促進したりすることで、社員同士のコミュニケーションの深まりと現場力の向上を図る。また従来拠点ごとに講師を派遣して実施していた人材育成のための研修にも活用できると興亜硝子では期待している。

選定にあたっては、事前の社内ネットワークでのデモ運用実績、既存のネットワークやPCをそのまま利用可能であること、新規導入設備のコスト面などから、複数のベンダーの製品を調査・検討し、Visual Nexusの優位性を高く評価。その結果Visual Nexusの採用を決定した。



システム構成

興亜硝子は、デザインやカラーリングなどファッション性

が重要視される化粧品用ガラス容器を製造しており、同市場ではシェア 50%以上を獲得しているトップメーカー。顧客の多様化するニーズに対応するための体制作りのために、これまでさまざまな IT ツールを導入してきたという。ビデオ会議もその一環となるようだ。

今後は、導入後の利用動向や社員からのニーズを踏まえ、未導入部門への展開拡大と、海外の拠点への拡張を視野にいれて検討をしていく考え。

興亜硝子株式会社

<http://www.koaglass.co.jp/>

セミナー・展示会情報

<国内>

大不況を乗り切る！ 3つのテレビ会議 有効活用 実践・体感セミナー即効性のあるテレビ会議の有効活用手法をお伝えします！

コース1:コスト削減と業務改善を簡単に行う会議システムとは？

コース2:もっと簡単に有効な会議ネットワーク構築手法とは？

コース3:もっと快適かつ高品質な会議システムの技術とは？

日時:3月4日(水)、5日(木)、11日(水) *参加希望日を選択。

会場:VTVジャパン 東京本社、大阪支社

主催:VTVジャパン株式会社

詳細・申込:<http://www.vtv.co.jp/topics/seminar/200901.html>

ポリコムイマーシブテレプレゼンス無料体験プログラム

日時:1月26日から3月31日まで

*参加者希望日に応じて毎日開催。

会場:ポリコムジャパン(東京、紀尾井町)

プリンストンテクノロジー(東京、秋葉原)

主催:ポリコムジャパン株式会社

詳細・申込:http://www.polycom.co.jp/event/tp_experience/

テレワーク新時代に向けて

- 普通の働き方になりつつあるテレワーク -

日時:2月16日(月)13:30-17:30

会場:ホテルルポール麹町(東京都千代田区)

主催:国土交通省

協力:社団法人日本テレワーク協会

詳細・申込:

http://www.japan-telework.or.jp/info/info_2009_01_21.html

『ユニファイドコミュニケーションで創るクリエイティブワークスタイル』セミナー イトーキ・OKI 共催 第2回 『対話を促進するミーティングコミュニケーション』

日時:3月3日(火) 14:00~17:00(13:30 受付開始)

会場:イトーキ東京ショールーム

(東京都中央区入船3-2-10 アーバンネット入船ビル)

主催:株式会社OKI ネットワークス、沖電気工業株式会社、株式会社イトーキ

詳細・申込:

<http://www.oki-networks.com/jp/event/2009/090303.html>

世界トップシェアのタンバーク ~なぜ TANDBERG が選ばれるのか~

日時:3月19日(木)

15:00~16:30

会場:日本タンバーク 東京本社

主催:日本タンバーク株式会社

詳細・申込:

http://www.tandbergjapan.com/news_and_events/seminar_demo_nl.html

編集後記

今回もお読み頂きまして有り難うございました。まだレポートしていないニュースがありますので次回以降に掲載いたします。今後とも宜しくお願い致します。

CNA レポート・ジャパン 代表 橋本 啓介